

災害地名・危険地名とアイヌ語

階戸 孝之 (アイヌ語地名懇親会)

はじめに

地名は発生当時は生活に必要な地点の目印として、当時の簡単な誰でもわかる言葉で表現したものの。共通認識され、地名として定着すると記号として機能し、もとの言葉の意味とは無関係になり1万3千年続いた縄文時代の縄文語が弥生語、大和言葉へと変貌していったと考えています。DNAのゲノム解析により日本列島全域に縄文人がいたことが証明されている現在、各地に縄文語による縄文地名が残っていると考えるとなにも不思議なことはありません。梅原猛先生の提唱のように、「縄文語はアイヌ語に引き継がれた。」と考えています。日本語化された地名を復元するには複数の語源が隠されている場合も多い。現在の地名からアイヌ語地名探索作業は、意義深いものであるが意見交換も必要と考えている。

調査方法

文献、報告書等をもとに、地形と災害・危険地名、アイヌ語地名について調査した。

1 北海道の災害地名

(※1 アイヌ口碑伝説等により伝承された大規模災害の

検証と現在の防災・減災対策への適用性に関する研究

北海道大学大学院農学研究院特任教授 南 哲行)

1) ピ、サツ (砂礫の流出)

土砂や砂礫の流出が多く洪水や土石流などの土砂災害が起こりやすい土地 (河川) を示すと考えられる

登別市 サトオカシベツ川 (上流部が札内原野の火山地帯で、平常水が流れていないので、サトオカシベツ (sat-okashpet 乾いている・岡志別川) といわれたものらしい。平常下流部でもわずかな水が流れているだけであるが、S58年集中豪雨で鉄砲水が多量の土砂を流し大被害を受けた

「地名の語義を知って管理されていたならば・・・」

例 ポロ・ピ・ナイ (大きな・石・沢) : 幌美内[千歳市]

ピ・タル・ランケ (石・川原・下る) : ビタタヌンケ川[えりも町]

ピ・ピ・ルイ (石・石・はなはだしい:ベベルイ川[上富良野町]

シュマ・リ・ナイ (石・多い・川、石・流れる・川) : 朱鞠内[幌加内町]

ピ・サン・ペツ (石・流れ出る・川) : 毘砂別[石狩市浜益区]

ピ・ウシ (石・多い) : 比石川[檜山郡]

ペ・ルプネ・イ (水・大きい) : 歴舟川[広尾町]

サツ・ポロ・ペツ (乾いた・大きい・川) : 豊平川[札幌市]

サツ・ピ・ナイ (乾いた・石・川) : 札比内[月形町ほか]

サツ・ナイ (乾いた・川) : 札内川[帯広市ほか]

サツ・フミ (乾いた・音のない) : 札富美川[湧別町]

2) サン、シロノ (大水、洪水)

大水が出るという意

例 サン・ナイ (出る・川) 鶴居村ほか・珊内 鉄砲水の出る川

サンケ・ペツ (浜の方に出す・川) 羽幌町三毛別川

シノ・オロ (本当に水のあるところ) 札幌市篠路

3) トイ、ペルケ (崖崩れ、山腹崩壊)

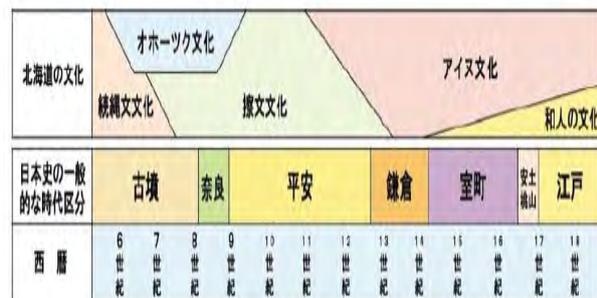


図1-1 北海道と日本の歴史文化

崩れる (トイ)、裂ける (ペルケ) 崖崩れ、山腹崩壊が起こりやすい土地

- 例 トイ・パケ (崩れた・岬) 枝幸町問牧
- トイ・ピラ (崩れた・崖) 札幌市豊平
- トイ・カム・ペツ (土砂のかぶさる・川) 幌延町問寒別
- ペルケ・ヌプリ (裂けた・山) 弟子屈町美留和山

4) トウ・コタン (廃村)

捨てた村 災害や疫病など何らかの理由により居住しなく (出来なく) なった土地

- 例 トウ・コタン (捨てた・村) 佐呂間湖周辺、別海町、小樽市 床丹、厚岸町床譚、有珠山周辺トコタン

5) カムイ (神の)

地形が険しいなど人が容易に近づけないところ、通行が危険なところ、災害を起こす大きな力が働く土地

- 例 カムイ・エトウ (神の・岬) 浜頓別町神威岬
- カムイ・コタン (神の・住むところ) 旭川市石狩川、広尾町歴舟川
- カムイ・ヌプリ (神の・山) 弟子屈 (てしかが) 町摩周湖東南壁の活火山
- カムイ・ロキ (神の・座) 足寄市カムイロキ山

6) ウェン (悪い)

人間が利用できない、又は人間に災害、災厄を及ぼすという意をもつ
何らかの災害履歴を持つ土地の可能性あり

- 例 ウィン・ナイ、ウェン・ナイ (悪い・川) 雨竜町雨煙内、陸別町宇遠別川、羅臼町植別川
- ウェン・シリ、ウェン・ピラ (悪い・崖) 十勝地方 十勝川河岸 苫前町・尾平町 上平

7) トック (土地が隆起する)

河川の流路が変化する毎に土地が隆起したという意

土砂流失が激しく河床が上昇傾向にある、あるいは地すべりが多く存在する河川流域を表す可能性あり

- 例 トック (土地が隆起する) 新十津川町徳富川、乙部町突符川

8) その他

- ライ・トコロ (死んだ・常呂川) 北見市ライトコロ川
- 地震に伴う河道閉塞で流路が変わってしまった古い常呂川
- ピウケ・ナイ (襲いかかる・川) 旭川市ピウケナイ川 水がどっと押し寄せてくる川
- ムカ (塞がる) 北見市無加川、むかわ町鶴川 土砂や結氷で川が塞がる
- ウナ・ペツ (灰・川) 斜里町?海別川 過去に火山噴火により川が埋まった2 全国の災害地名

2 長崎県の災害地名

(※2 災害と地名・連載②「長崎大水害」から見る
歴史的地名の検証 楠原佑介)

1982年 (S52.7.23) 長崎豪雨の被災地
川内 (カワチ・ゴウチ) 地区 23名犠牲
川があるところ・谷間になったところ

川平 (カワヒラ) 郷内平 (ウチピラ)
地区 33名犠牲 (右図 参照)

平 (ヒラ、ピラ) について この地名用語は地滑りの結果生じた地形を表したもののヒラはタヒラの頭音が脱落した用語
ヒラは薩摩方言で崖 南島方言で坂
知里満志保 アイヌ語で pira 崖 土



が崩れて地肌の表れている崖

滑石（ナメシ）地滑りの結果生じた破碎岩を示した地名

滑（ナメ）について

川床の一枚岩（群馬県・埼玉県秩父） 地面の凍って滑る所（長野県・奈良県吉野）

やわらかい岩盤（秩父・山口県）、赤土・ローム層（八王子市）

動詞舐めるには印刷・製本業界の用語で書籍などの小口を切り落とすという意味がある

鳴滝（ナルタキ）音響地名 水音が鳴る 落下する、倒壊する、沈む、死ぬ

日本語の滝は動詞滾る（タギル） 水が激しく流れる意 ナルは坂で、タキは崖の意

鳴滝は先年大水害に見舞われた

断崖をタキというのは中国、四国から西に多く、ダキと濁るところもある

同類の滝を示す古語 垂水・樽見 鹿児島県垂水（タルミズ）市で平成27年6月シラス台地から

流れ落ちる小川で土石流災害が発生

3 広島県の災害地名

2014年8月 広島土砂災害 安佐南区・北区死者77名、負傷者68名

安佐 アサ 崖崩れ・土砂崩れでできた場所、古語アズ

八木 ヤギ 岩の露頭や転石のある場所、崩壊地名

緑井 ミドリイ 湿地の他、川窪、豪雨や地震後に崩壊する場所の意 ミドロ（深泥）から

4 熊本県の災害地名

（※3 災害の教訓と地名 シンポジウム 熊本地名研

究会より谷川健一 日本地名研究所長他）

益城町

「土木技術者たちが災害地名に関心を持ってないのは問題。」

柿迫 迫は谷間で水が多いところ 柿は欠ける

柳水 柳は矢のように水が流れる場所で「矢流れ」が「柳」に？

鍋倉 水がダートと流れている様 鍋の底のように水が溜まりやすいところ

熊本城下町

立田の阿蘇三ノ宮神社の周囲の白川沿い

「カワズル」「大江川鶴」「北津留」「津留」

「藪林」「鶴の茶屋」 崩壊地名

熊本の水害の関連地域は「ツル」地名が多い

「先祖たちがどういうことを教訓として残していったかを地名から考え、感謝すべきである。」

5 兵庫県県の災害地名

（※2 災害と地名・連載②「長崎大水害」から見る歴史的地名の検証 楠原佑介）

神戸市 灘区、東灘区、芦屋にかけて古代国郡制では摂津国兔原郡

兔原 災害地名 ウバ（奪）ハラ（膨）

福原 フク（膨）ハル（脹）

アイヌ語 purke-para 大水が出る広い所 Purke-wattar 音を立てる沢

三木市

羽場（ハバ） 崖や段丘を表す 保木（ホキ） 急峻な地形にある地名、険しい崖

和田（ワダ） 周りが水に囲まれた所、水がわだかまる所

平田・平井・平山（ヒラタ・ヒライ・ヒラヤマ） がけ地 大柿（オガキ） 欠ける土地

地形地名	地質	山砂の多いところ・粘土系・腐植土・花崗岩・火山灰・凝灰岩地帯が崩壊を起こす地層	
	地形	山の欠けるところ	カキ・カケ・影
		地すべり地	猿・皿・サレ
		崖地	ホキ・ホケ・フキ・フケ
		斜面剥落地	ハギ・ハケ・ハゲなど
表層崩壊地	スキ・スゲ・スギ・シゲ		
動物地名	地すべり	獅子・鹿・宍	
	崖崩れ	山が落ちて飛んでしまう鳶・鷹	
	侵食地	亀・瓶・（洪水氾濫不安定地）憂し地名として牛・馬・鯉・恋・鯛・タイ・鮫	
	川の曲流部	ツル・鶴	
植物地名	山が欠ける	柿	
	崩落で埋まる	梅	
	崖地	竹・萱・カヤ	
	地すべり	胡桃・栗・杉・橘・麻	

楠原 (クスハラ) 崩れる 久留美 (クルミ) 崩れる所 滑原 (ナメラ) 滑り地
 福井 (フクイ) 膨れる 豊岡 (トヨオカ) トイ崩れた オカ

6 その他災害地名について

(※3 災害の教訓と地名 シンポジウム 熊本地名研究会より 谷川 健一 日本地名研究所長他)

岩手県一関 磐井川 かつて川の一部を「阿久利川」と言った

「あくり」は水があふれやすい、洪水が起きやすいところを意味している

新潟県三条 五十嵐川

「五十嵐」は「イカル」に通じ、水があふれる、水害に見舞われやすい川のことを意味している

アイヌ語でも水があふれることを「イカリ」という

信州 田切川は「たぎる」で水が湧き出すことの意

万葉集の例

足柄の麻万 (ママ) の小菅

葛飾の眞間 (ママ) の手児名

ママは急な傾斜地を指し、崖をいう

「北海道北見宗谷郡メメナイ

アイヌ語で崩れ川、崩壊をママという」

柳田国男の『日本の地名』にあるママという地名

愛知県小牧市間々 高知市 万々

大分県 間間峠

兵庫県 八鹿町高柳 万々谷

(柳・ママ共に急傾斜地をさす

最近発見 参考 右図)

災害地名アプリ

公開アプリ「日本の災害地名」有料
 iphon 用アプリとしてあり、自分の住んで
 いるところの危険度を知ることができ
 ける 「航空写真」という無料版もある

学校での学習

災害地名の学習の取り組みとして宝塚市立長尾小学校のように5年生の社会の時間に「自然災害
 から人々を守る」という授業がされている例がある

結果と考察

地名にはその土地の生活であったり水害や土砂災害の歴史が含まれているものが多く存在する。

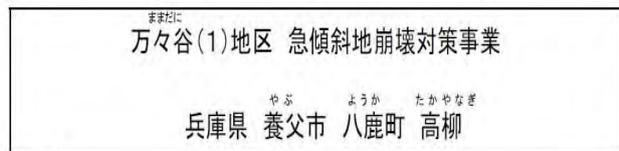
北海道以外でもヒラ、イカリ、ママのようにアイヌ語で読み解ける地名がある。

全国にいた縄文人たちが縄文語で、その後時代を経てアイヌ語へと受け継がれ現在の私たちへ警鐘
 を鳴らしてくれている。

北海道においては災害とアイヌ語、アイヌ伝承との検証がされ啓発も進んでいる。

アイヌ語に関心がある人は少ないかもしれないが、まだまだ多く潜んでいるであろう北海道以外の
 災害地名・危険地名とアイヌ語の関係を読み解いていきたいと思っている。

「何でもかんでもアイヌ語と関連づける人たちがいる。」という声もあるが、独りよがりになること
 なく、多くの人とつながっていき、縄文人からのメッセージを受け取り、防災・減災啓発に役立ててい
 ければと思っています。



【箇所概要】

当地区はがけ高30m、勾配37度の土砂災害特別警戒区域に保全人家がある急傾斜地である。当該斜面は荒廃が著しく、斜面崩壊の危険性の高い状態であるため、急傾斜地崩壊対策事業を行い、斜面崩壊から住民の生命を保全する。保全対象は、人家15戸、市道。

【位置図】



【計画概要】

全体事業費: 140百万円
 工期: R2~R4
 延長・工種: 擁壁工 L=200m

【全景】

